

話し合う会2021 地域の外国人と日本語教室 第1回

日時：5月22日（土）13:30～15:00

場所：オンライン

テーマ：日本語教室の課題解決をどうしていますか

ーあいち地域日本語教育コーディネーター派遣の成果と課題ー

進行：鈴木勝代 記録：鈴木勝代 参加人数 21人

- 1 開催趣旨説明：鈴木
- 2 主催者挨拶（TNN:酒井、県：千葉）
- 3 参加者自己紹介
- 4 報告：あいち地域日本語教育 コーディネーター派遣事業 ～取組のご紹介・成果と課題～

発表者：大岩（愛知県多文化共生推進室 あいち地域日本語教育推進センター）

外国人県民の現状、県の取組み、地域日本語教育体制整備事業、実施状況を説明した後、あいち地域日本語教育コーディネーター派遣事業の中から具体例を挙げて内容を紹介。アンケートに基づき課題や事業の成果を知る。

・資料は事前配信

- 5 意見交換

*全体

友：報告にあった昨年度の県事業に参加したことで、できそうなスタッフがオンラインのやり方を学び、他者へ学習者へと広げた。更にやれることを増やして活動を充実させている。

*ブレイクアウトルームで5グループ話し合い、全体で共有

- (1) 酒井：日本語支援をしていくためのヒントがたくさんあった。地域の日本語支援は、ニーズが多様になり、多極化したが、学べる機会や場を増やしていけると良いと思う。
- (2) 稲熊：コロナ禍でやれないこともあるが、Facebookなど利用して活動を継続する。
- (3) 米勢：県の報告はボランティアとしては距離があった。岐阜県のアドバイザー派遣事業では課題が整理できた。今後はオンラインから離れて、日本語学習支援、外国人と一緒にやることは何か、教室としての指針を考えていくのはどうか。
- (4) 友：少しずつでもできることを増やしていく。
- (5) 池田：オンラインを進めるにはそれができる環境などの支援が必要。

*この会もオンラインで開催したこともあってか、自治体職員の参加も増え、大阪など他県の参加など昨年までの対面とは違った参加者や意見交換ができた。去年は閉鎖していた日本語教室も今年はオンラインで活動ができていると聞き、1年の良い変化がわかった。

7 次回案内

7月24日（土曜）13:30-15:00 オンライン

「日本語教室におけるオンラインの活用と課題-自治体・協会職員という立場から考える-」

（各務原国際協会）

8 アンケート